

施策マネジメントシート1(23年度目標達成度評価)

作成日 平成 24 年 5 月 30 日
更新日 平成 24 年 7 月 10 日

総合計画体系	政策No.	2	政策名	みどり豊かな環境と共生するまちづくり	施策統括部	事業部	部長名	齋藤 正昭
	施策No.	9	施策名	住環境の充実	施策主管課	都市計画課	課長名	辻 賢一郎
					関係課	総務課・企画課・商工振興課・環境衛生課・上下水道課・農政課、市民課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
市民

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)
快適な住環境で暮らすことができる

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)
成果指標Aは市民意識調査にて把握。
設問「あなたの住んでいるところは、良い住環境だと思いますか。」
選択肢: 1. とても良いと思う 2. どちらかといえば良いと思う 3. どちらかといえば悪いと思う 4. とても悪いと思う
⇒1及び2を選択した人の割合

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない

名称		単位
A	人口	人
B		
C		

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない

名称		単位
A	よい住環境であると答えた市民の割合	%
B		
C		
D		
E		
F		

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	21年度現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
対象指標	A 人	見込み値		56,281	56,829	57,377	57,925	58,474	
		実績値		56,638					
成果指標	A %	成り行き値		88.5	88.4	88.3	88.2	88.1	
		目標値		89.1	89.3	89.5	89.7	89.9	
		実績値	88.7	91.3					
	B	成り行き値							
		目標値							
		実績値							
C	成り行き値								
	目標値								
	実績値								
D	成り行き値								
	目標値								
	実績値								
E	成り行き値								
	目標値								
	実績値								
F	成り行き値								
	目標値								
	実績値								
事務事業数			本数	36	35	34	34	34	
施策コスト	財源内訳	国庫支出金	千円	11,745	40,658	47,454	37,010	48,196	
		都道府県支出金	千円	102	96	102	102	102	
		地方債	千円	13,300	127,300	78,568	57,680	80,052	
		その他	千円	864,270	1,227,119	1,296,533	1,030,913	961,523	
		繰入金	千円	5,027	6,141	7,006	7,005	63,222	
		一般財源	千円	62,087	60,192	57,991	57,929	57,866	
	事業費計(A)		千円	956,531	1,461,506	1,487,654	1,190,639	1,210,961	
	(A)のうち指定経費		千円	506,985	514,773	598,405	598,405	598,405	
	(A)のうち時間外、特殊勤務手当		千円	2,390	2,065	907	346	346	
	人件費	延べ業務時間	時間	30,561	20,251	20,106	19,241	19,491	
人件費計(B)		千円	123,387	85,632	85,035	81,472	82,502		
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,079,918	1,547,138	1,572,689	1,272,111	1,293,463		

基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)
A: 良い住環境であると答えた住民の割合は、平成21年度までの実績値でも高い水準にあるが、公園等の施設の老朽化や個人ごとの価値観等の違いによる騒音、悪臭等への苦情が微増することが懸念されることを踏まえると、成り行き値は、微減すると考え、平成27年度を88.1%とした。目標値については、今後、公共施設の維持管理を適正に進め、市民との協働により、良い住環境を創りあげることで、目標値を、最高実績値であった平成21年度を上回る89.9%に設定した。

基本計画期間における施策の方針
①土地利用基本計画に基づき里山を保全していく。(みどりの景観の保全より)
②快適な住環境をめざし、市民の身近な公共施設を計画的に更新していく。

施策マネジメントシート2(23年度目標達成度評価)

住環境の充実

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

【1】この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・市民は、身近なところから良い住環境になるよう意識して行動する。
 - ・市民は、公園等の公共施設を大切に利用する。
 - ・地域では、公共施設がみんなの施設であることを認識し、維持管理等に積極的に協力する。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・市民との協働により、良好な住環境を創りあげるための取り組みを進める。(啓発、指導を含む。)
- ・市民が、安心して安全に使用できるよう公共施設等の整備、維持管理を行なう。
- ・公害の防止については、法令等に基づき適切な指導を行なう。

【2】施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成27年度を見越して)

- ・建築後、約30年以上経過した市営住宅が170戸(総戸数301戸)あり、今後更に老朽化が進むため改修が必要になってくる。
- ・給水人口の増加に伴う新たな配水池、水源地の整備拡充が必要となる。
- ・老朽化による、水道施設(配水池・水源地・配水管)の計画的な改修が必要になってくる。また、大震災以降、災害に備えた耐震対策の強化が求められている。
- ・高齢化社会になってきているため、市営住宅の居住者も高齢化し、バリアフリー化を望む声がさらに強くなる。
- ・現在、市街化区域に隣接した南部地域に開発が集中しており、今後数年間は続くことが予想されるため、周辺の道路や交差点の改良、上下水道、特に学校や保育所等のインフラ整備が必要になってくる。
- ・自衛隊演習場のヘリコプターの騒音に対する苦情が寄せられているが、周辺の宅地化が進めばさらに多くなることが予測される。
- ・市民一人当たりの公園面積は、国の基準を上回っているが、遊具施設等の老朽化がすすみ改修等が必要になってくる。
- ・市の人口は増えているが、一方では高齢化に伴う空き家等の増加もみられ、市としての対策が求められることが予想される。

【3】この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・山林が荒れることに伴い、不法投棄が増えているとの声が市民から寄せられている。
- ・市民ワークショップで「緑豊かな地形で、景観がよく空気がきれい。」「緑が豊かで住みやすい」「住宅地の近くに自然が多く残っている」「大きな河川がない」との意見があった。

【平成23年度の施策評価(22年度振り返り)における総合政策審議会意見】

1. 地域の景観を保つための整備については、支援を継続的に実施していくこと。
2. 多く自生している竹は、先進事例等を参考に商品化するなどの有効活用を図ること。

【平成23年度の施策評価(22年度振り返り)における議会意見】

1. 里山保全のために竹林を雑木林へと転換を図ること。
2. 竹林整備の成功事例を調査し、本市への応用を図ること。

4 施策の評価

【1】施策の目標達成度(23年度目標と実績との比較)

A → O 【 よい住環境であると答えた市民の割合 】
: 目標値89.1%に対し実績値は91.3%であり、目標は達成できた。】

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

A・住環境における、騒音、振動、悪臭等については周知啓発の強化により苦情件数が減少しており、相談にも即対応している。また、水道の普及率も高く、公園も充実していることが背景として考えられる。

※O:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%程度) ×:目標を未達成

【2】施策の振り返り(施策の方針、経営方針の達成度等)

- (1)平成23年度経営方針である、①「動物と共生を図る取組みを検討する」については、市長マニフェストでもあり策定について検討した。マナー面については、既に合志市美しいまちづくり条例に規制条項があるので、新たに条例を制定する事は既存条例の内容と重複する事となるため、新たに条例の制定は必要ないとした。また、動物愛護については何も定めていないが、熊本県動物の愛護と管理に関する条例の中で定めがあるため、今後合志市として条例制定すべきか検討していく。
- ②「水道水の継続的な水質の維持管理に努める。」については、合志市水道ビジョンに基づき、水質基準に適合した配水管理を徹底し、安定した配水確保のため、施設の充実を図った。
- ③「水道施設の計画的な更新を進める。」についても、合志市水道ビジョンに基づき、老朽化した施設の改築更新及び耐震化に取り組んだ。
- ④「住宅地の道路側溝等の環境整備を推進する。」については、30年以上経過した住宅団地の道路や側溝について、計画的に整備を進めている。
- ⑤「雑木林及び里山の保全対策を検討する。」については、里山が荒れている原因は、不在地主の増加や所有者の高齢化で十分な手入れが出来ないことが主な原因と考えられる。今後も里山の所有者へ管理を強く働きかけると共に新たな対策の検討を行なっていく。

(2)事務事業貢献度評価の結果では、平成23年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、屋外燃焼行為対策事業、ごみ一時保管所整備費補助事業、上水道配水管等整備事業、簡易水道整備事業があげられた。

【3】 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・市営住宅の計画的な維持管理。
- ・給水管の計画的な更新。
- ・より良い住環境にしようという意識の啓発。
- ・宅地化に伴う公害苦情への対応。
- ・公園の計画的な改修・長期展望に立った都市計画の見直し。

5 施策の23年度結果に対する審査結果

① 政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成24年7月10日)

- ・成果指標では目標を十分達成しており、良い住環境であるという現状を維持していくことが必要である。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成24年7月25日、8月3日、8日まとめ)

- ・空き家、空き地に関しては、市としての対策を検討すること。

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成24年9月21日)

- ・里山保全に努力すること。
- ・住宅開発が進む中、自衛隊ヘリコプターの騒音苦情への対応を図ること。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成25年度合志市経営方針(平成24年10月9日)

1. 安全安心な水道水供給のため、計画に基づき水道施設の整備充実を図る。
2. 市営住宅の長寿命化計画を策定し、今後の方針を定める。
3. 農村集落竹林整備事業を推進する。
4. 安心して暮らせる住環境を守るため、雨水・排水対策に取り組む。

施策マネジメントシート3(23年度目標達成度評価)

基本事業名	23 環境衛生の充実	基本事業担当課	環境衛生課
-------	------------	---------	-------

対象	市民	意図	衛生的に暮らせる
----	----	----	----------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 環境衛生に対する苦情件数 (騒音、振動、煤煙、悪臭等)	件	(成り行き値)目標値		(33) 24	(33) 24	(33) 24	(33) 24	(33) 24
		実績値	49	15				
B 苦情に対する対応率	%	(成り行き値)目標値		(86.0) 95.8	(86.0) 95.8	(86.0) 95.8	(86.0) 95.8	(86.0) 95.8
		実績値	83.7	86.7				
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A: 目標値については、苦情の最も少ない件数であった平成19年度の24件と設定した。
 B: 目標値については、過去4年間で最も対応率の高かった平成19年度実績値の95.8%を平成27年度まで設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題

A)平成21年度と比べて騒音等に関する相談件数はかなり減少したので、広報等での周知啓発に一定の効果があった。測定結果次第では騒音等の原因者に指導が難しい場合もあるが、任意のお願いをすることで対応していく。また、広報等での周知啓発も継続していく。
 B)苦情相談には100パーセント対応したが、対応後も再発するケースも多々あった。例としては犬のマナー(フンや放し飼い)、不法投棄がある。犬のマナーについては広報等で啓発したり、保健所と連携しながら指導を強化していく。また、不法投棄については投棄状況を必ず土地所有者に確認してもらい、今後捨てられにくいような対策を取るよう啓発を徹底する。

基本事業名	24 水の安定供給	基本事業担当課	上下水道課
-------	-----------	---------	-------

対象	市民	意図	安定して水の供給を受けられる
----	----	----	----------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 水道普及率(給水人口)	%	(成り行き値)目標値		(97.3) 97.3	(97.4) 97.4	(97.5) 97.5	(97.6) 97.6	(97.7) 97.7
		実績値	97.1	98.2				
B		(成り行き値)目標値						
		実績値						
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A: 専用水道利用人口、自家水の利用人口(0.5%)への転換を考慮しても、今後人口増による率の増加と同様になることから、平成27年度97.7%と設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題

A) 専用水道(栄温泉団地)の施設等の老朽化により、上水道へ移行したため目標値を上回った。給水人口増加に伴う、安定供給を維持するため計画的整備を進めていく。

基本事業名	25 公営住宅の充実	基本事業担当課	都市計画課
-------	------------	---------	-------

対象	市民	意図	安心して住むことができる
----	----	----	--------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 公営住宅入居率	%	(成り行き値)目標値		(99.0) 100	(99.0) 100	(99.0) 100	(99.0) 100	(99.0) 100
		実績値	97.3	95.7				
B 公営住宅に関する苦情件数	件	(成り行き値)目標値		(9) 2	(9) 2	(9) 2	(9) 2	(9) 2
		実績値	7	5				
C 苦情に対する対応率	%	(成り行き値)目標値		(81.1) 100	(81.1) 100	(81.1) 100	(81.1) 100	(81.1) 100
		実績値	71.4	100				
D		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A: PRを積極的に行ない、平成23年度以降100%として設定した。
 B: 過去4年間で最も苦情件数の少なかった平成19年度実績値の2件を平成27年度まで設定した。
 C: 過去4年間で最も対応率の高かった平成19年度実績値の100%を平成27年度まで設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題

公営住宅の入居率については、中堅所得者向けの団地について空き室が3~4戸と続いており、また震災避難者向けに1戸を準備していたため実績値は減少した。今後は引き続き、広報やホームページ、また現地に空き室の表示等により募集を行なっていく。住宅に関する苦情については、減少してきているので、対応についても同様に100%の対応を行なっていく。

施策マネジメントシート3(23年度目標達成度評価)

基本事業名	26 公園など身近な住環境の整備	基本事業担当課	都市計画課
-------	------------------	---------	-------

対象	市民	意図	安全に憩うことができる
----	----	----	-------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 市民一人あたり公園面積	㎡	(成り行き値)目標値		(11.3) 11.3	(11.3) 11.3	(11.3) 11.4	(11.3) 11.4	(11.3) 11.4
		実績値	11.3	11				
B		(成り行き値)目標値						
		実績値						
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A:宅地化が年間4,0ha(うち地区計画による宅地化2,0ha)ずつ進むのと公園新設を考えるが、人口増を加味して、平成27年度を11.4%と設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題

国が示している市民一人あたりの公園面積(11,0㎡)の基準値には達しているが、年間4~500人の人口増加があることから開発等で小規模の公園が設置されても、実績値は減少している。今後、市街化調整区域において、地区計画等で開発がなされた住宅が密集する地域においては、周辺に見合った規模の公園の設置を検討していく必要がある。

基本事業名	27 みどりの景観の保全	基本事業担当課	農政課
-------	--------------	---------	-----

対象	市内全域	意図	みどりの景観を保全する
----	------	----	-------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 山林面積/市域面積×100	%	(成り行き値)目標値		(12.58) 12.58	(12.52) 12.52	(12.46) 12.46	(12.40) 12.40	(12.34) 12.34
		実績値	12.70	11.86				
B 市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の割合	%	(成り行き値)目標値		(42.3) 44.0	(42.3) 44.9	(42.3) 45.7	(42.3) 46.6	(42.3) 47.4
		実績値	42.3	44.8				
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A:開発が可能な所が開発されている現実から、行政による抑制は難しいと考え成り行き値と同等とした。
B:みどりの景観が保たれていると思う市民の割合は、住んでいる地域で著しく異なると考えるので、市民との協働により緑を増やすことで、平成27年度の目標値を過去4年間の平均値である47.4%に設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題

竹林の整備は、当初予算の6割程度の執行だったため、今後は事業の周知を徹底すると共に外部委託が補助要件となっているものを直営でも補助対象になるよう要件の緩和を検討する。

基本事業名		基本事業担当課	
-------	--	---------	--

対象		意図	
----	--	----	--

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A		(成り行き値)目標値						
		実績値						
B		(成り行き値)目標値						
		実績値						
C		(成り行き値)目標値						
		実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題